

早春に放牧地で作溝式播種機により牧草追播する最適な方法

【1 成果の概要】

放牧地において、前植生の草丈調整の必要のない早春時期（草丈約 9cm）に作溝式播種機を用いて牧草追播処理を行う場合、播種後の前植生が約 30cm 以内で入牧することで、その後の牧草定着率 80%以上を維持できます（表 1）。

なお、初回入牧時の前植生の草丈（15cm、30cm）の違いによる牧草定着率の差は見られませんでした（表 1）。



写真1 作溝式播種機（エイチゾン社製 グラスファーマー）
ー）施工時の草丈約 9cm、施工日 5月 16日

表1 追播牧草の出現率の推移

	牧草出現率 ¹ (%)					
	放牧1回目	放牧2回目	放牧3回目	放牧4回目	放牧5回目	放牧6回目
15cm区 ²	41 (100.0)	35 (85.3)	34 (82.9)	34 (82.9)	33 (80.4)	33 (80.4)
30cm区 ²	39 (100.0)	36 (92.3)	35 (89.7)	34 (87.1)	33 (84.6)	33 (84.6)

1 コドラート法（方形枠法）を用いて行い 1m×1m の方形枠を 10cm 四方、100 分画した中で追播牧草の出現した分画の数から算出した。（定点調査：n=各 3）
2 各区の名称は入牧時の前植生草丈をあらわす（15cm 区：実測値 16.7cm、30cm：実測値 29.9cm）
()内は播種後、初回入牧時の追播牧草出現率を 100 とした場合の相対出現率をあらわす。

【2 効果】

作溝式播種機を用いた牧草追播処理後、前植生の草丈を指標とした、放牧利用開始時期がわかります。

【3 留意事項】

作溝式播種機はエイチゾン社製グラスファーマー（写真 1）を使用し、オーチャードグラス（品種：バッカス、播種量：2.5kg/10a、作溝幅 14cm）を播種したものです。また、前植生はオーチャードグラス主体としています。

【4 適応対象】

県内畜産関係指導者

担当研究室

畜産研究所 外山畜産研究室 〒028-2711 盛岡市玉山区藪川字大の平 40 TEL. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012